

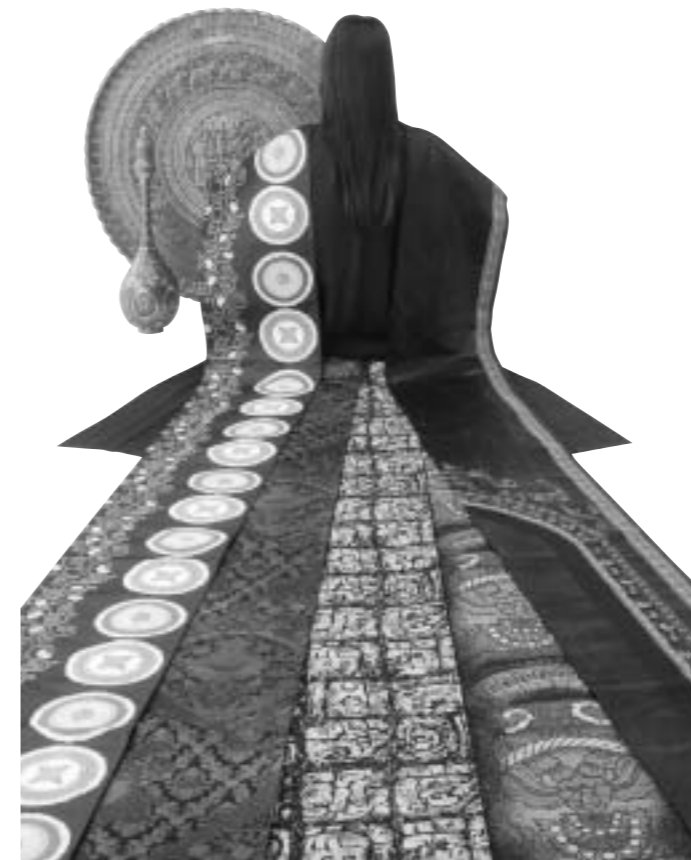
## ENJOY!着物コーナー

### シルクロードに 想いを馳せて

着物は、世界中の人から「美を着る」と絶賛されている民族衣装。そして着物といえば、「絹」というイメージがありますね。

今回はこの絹糸とシルクロードのお話をさせていただきます。

絹糸が発見されたのは、紀元前300年前。中国の黄帝のお妃が、誤って繭をお湯の中に落としたのがきっかけ。これを拾い上げると途切れなく繭から糸がとりだせたのが始まりといわれています。その



後は中国では、大勢の女官が繭を煮て糸を手繰り、機で織物を縫い上げました。この絹織物と織りの技術は長く門外不出とされていたそうです。

紀元前2世紀のころ、漢の時代、北方の遊牧民の侵攻を防ぐためにはぜひとも駿馬が必要ということで、漢は駿馬との交換のため、絹織物を国外へ流出することを始めたのです。

一方でヨーロッパはそのころローマ帝国全盛の時代。なめらかで光沢のある絹糸は羊毛と麻しか知らないヨーロッパ人にとっては、何者にも勝る魅力の品に映りました。なんと同じ重さの金と交換されるほどの高値で扱われたのです。

こうして絹を求めて、ヨーロッパ人と中国人が行き来した道がシルクロードの由縁です。

この6月に店で作品展をしていただく、藤井 勝比琥先生は、自分の着物作家としてのライフワークとして、着物の柄のルーツをずっと探しもとめて来られました。そしてそのルーツはペルシャの遺跡の中にあっただとおっしゃっていました。

長い年月をかけて、ペルシャからデザインが、中国から絹糸が日本にまで伝来し、世界一美しいといわれる、「着物」に集結されたのですね。



スピリチュアル・カウンセラー  
Abundance 慶

例えば、水は「H<sub>2</sub>O」。H：水素原子2個と、O：酸素原子が1個が引っ付いて水ができているという話でしたよね。

この原子は実はさらに陽子と中性子という物質からできているそうなのですが、この「陽子=意識」「中性子=意志」をもっていると書かれていました。

ちょっと難しい話ですが、要は、この世の中の全ての物質。水も、空気も、石も、鉄も・・・ みんな、陽子と、中性子がひっついて形を作っているんだけど、その目に見えない小さな小

な陽子、中性子それぞれに気持ちがあるようだ、という話でなんです。

とすれば、宝石の気持ちがわかるという話も理解できますよね。

野球選手で、三振するとバットを投げつける選手。ホームランを打たれたらグラブをたたきつける選手は一流になれないそうです。

確かに、いつも地面にたたきつけられているバットやグラブは持ち主の力になろうとは思わないでしょうね。

日本人は、昔から周りのあらゆる物に神が宿ると信じ、感謝を覚える民族でした。折れた針一本にも、供養をする民族でした。

昔の日本人は、物の気持ちを感じられたのですね。

物が豊かになり、便利になり、いつからか日本人は物の気持ちが感じられなくなってしまったのですね。

宝石の気持ちがわかる慶先生は、鳥取店に5月11日(金)～14(月)、米子店には5月18日(金)～20日(日)に来られます。お楽しみに!!

